

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荻田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荻田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



2.三軒茶屋から二子玉川まで

三軒茶屋から用賀に向かう大山街道は二本あります。右に向かう道が古く、この道はボロ市で有名な上町の世田谷代官屋敷前を通り、弦巻の追分では左の道へ。ここでは、かつて「左大山道、右登戸道」と道標が建っていました。その先、途中で大山大道旅人の像や野中の地蔵を眺め、真っ直ぐな道が用賀に通じています。

三軒茶屋から左の道を行くと、今も左側に旧道が一部残っております。この道は緩い上り坂をあがった所で本道に戻り、大山街道は環状七号線を越えて西に。駒沢の先から瀬田交差点に向かって一直線の新道が昭和30年代に開通していますが、大山街道は右に蛇行して桜新町を過ぎ、用賀の坂を下った所で上町から来た旧道と合流します。ここにあった道標は「右、江戸道、左、世田谷、四谷道」となっていました。大山街道は更に西へ、首都高速3号線の下、田中橋で谷沢川を渡り、しばらく行くと安永6年(1777)に建てられたお地蔵さん、道は又、ここで二本に分かれます。どちらの道も環状八号線を横断歩道で渡らなければなりません、右の道は急な慈眼寺坂を下り、左の道は稍ゆるやかな行善寺坂を下ります。丸子川(次大夫堀)を渡ってよいよ多摩川の河原。かつてここに二子の渡しがありました。大正から昭和の初期、清遊の地であった二子玉川は今、大ショッピングゾーンへと姿を変えつつあります。

6 用賀追分



文政 10 年(1827)相模から江戸へ物資の輸送、人の往来も盛んとなって、この三叉路に道標を兼ねた庚申塔が建てられた。その両面には「右江戸道、左世田谷、四谷道」と字が刻まれていた。(現物は世田谷区の郷土資料館中庭に移設)

7 真福寺



永禄、元亀(1558～72 年)頃、小田原北条氏家臣飯田図書が開基したと伝えられる。大산道に面す山門が朱塗りだった為、赤門寺とも云われた。真言宗に属し、実相山真如院真福寺と称してきたが、瑜伽(ゆが)山と改められた。

8 延命地藏



相模に向かう大산道は、ここで二股に分かれる。安永 6 年(1777)用賀村の女念佛講中が建てたもの。右へ進む道の方が古く、慈眼寺の前の急坂を下る。左の道は行善寺前に入る。

9 瀬田玉川神社



寛永年間に創建された、御嶽神社のあった所。明治 41 年、村内にあった八幡神社、天祖神社、熊野神社等を合祀して瀬田村の村社、瀬田玉川神社となった。この崖下の急坂は古い矢倉沢往還(大산道)。

10 治大夫橋



江戸のはじめ、幕府の命により代官小泉次大夫が計画、開削した農業用水。今は丸子川となっているが、かつて、六郷用水、次大夫堀と呼ばれていた。その堀の上を渡る大산道の橋が治大夫橋。

14 サザエさん通り



大正時代に住宅分譲された桜並木で有名な桜新町。「サザエさん」の作者、長谷川町子さんが 40 年居住、その跡が長谷川町子美術館となって、今、駅から美術館へ向かう道はサザエさん通りと呼ばれている。

15 田中橋



田中橋下流で等々力溪谷を形成する谷沢川が流れているところで、往時、両側が田んぼだった為、この川の上を渡る大산道の橋は田中橋と呼ばれていた。今は首都高 3 号線が空を覆い、昔の面影はない。

16 行善寺



小田原北条氏の有力家臣だった長崎隠岐守重高が土着した際、小田原の菩提寺を当地に移し、父の法号をとって行善寺とした。浄土宗で正式の名は獅子山西光院行善寺。境内からの眺望は素晴らしく、「行善寺八景」として版画に描かれている。

17 調布橋道標



この道標は、安永 6 年(1777)瀬田村の講中により六郷用水脇に建てられたもので、『南大산道、左・西、赤坂道、右・東、目黒道』となっている。この用水前の道は筏道、奥多摩へ帰る筏師たちが利用した。調布橋の名は新しい。

18 二子の渡し



二子の渡しは寛文 9 年(1669)、矢倉沢往還の継立村となった二子村が請け負っていたが、天明 7 年(1787)瀬田村にも渡し船の許可が下りた。ここは瀬田村にあった二ヶ所の発着所の一つ。大正 14 年(1925)二子橋ができ、その役目を終えた。